

ACTFL日本語OPIと 教育への応用

(学会当日の発表スライドに公開用の
修正を一部加えている)

筑波大学グローバル・コミュニケーション教育センター
堀 恵子

発表の概要

1. ACTFL日本語OPIとは
 - 1.1 対面／電話OPIについて
 - 1.2 OPIcについて
2. ACTFL 基準とCEFRとの関連づけについて
3. 日本語OPIの教育への応用
 - 3.1 教育現場への応用
 - 3.2 教材作成への応用
 - 3.3 OPIコーパス
 - 3.4 日本語教育研究への応用
4. まとめ

1. ACTFL日本語OPIとは

- ACTFL = The **A**merican **C**ouncil on the **T**eaching **F**oreign **L**anguageの熟達度ガイドライン（以下、「ガイドライン」）による（4技能のうち、「話すガイドライン」）
- **O**ral **P**roficiency **I**nterview
- 最長30分の対面，電話インタビュー
- 受験者の能力，興味に合わせてテストターが話題を選び (adaptive)，連続的に会話を行う
- 公式：認定を受けたテストター，2名の判定者→ACTFLの認定
- 非公式：認定を受けたテストターが教育機関内で行う。「非公式」の判定，書状を出すことが可能

全世界の包括的な問題や高度な抽象概念について広い範囲にわたって、仮説的な談話を用いて、幅広い聞き手に合わせて説得するように話すことができる。

DISTINGUISHED

Can reflect on a wide range of **global issues** and **highly abstract concepts**, use **persuasive hypothetical discourse**, and **tailor language** to a variety of audiences

SUPERIOR

Can **support opinion**, **hypothesize**, discuss topics **concretely and abstractly**, and handle **linguistically unfamiliar situation**

意見の裏付けができる。仮説が立てられる。具体的な話題も抽象的な話題も議論できる。言語的に不慣れな状況にも対応できる。

ADVANCED

Can **narrate and describe** **major time frames** and handle a situation with a **complication**

すべての主な時制を使って、叙述や説明ができる。複雑な状況に対処できる

INTERMEDIATE

Can **create with language**, **ask and answer simple questions** on familiar topics, and handle a **situation or transaction**

● 初級-上からだけ対人場面に際自分なりの文が作れる。よく知っている話題について簡単なQ & Aができる、単純な状況ややりとりに対処できる

NOVICE

Can **communicate** with formulaic and rote utterances, lists, and phrases

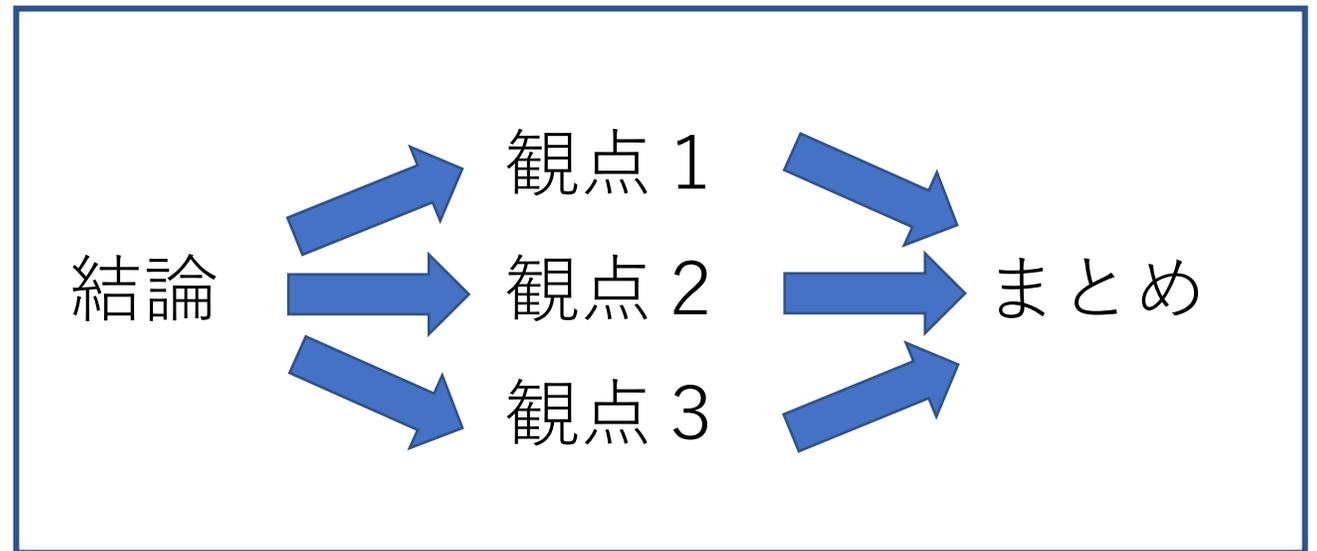
最小限のコミュニケーション：決まり文句、暗記した語句、単語の羅列

表 1 ACTFL判定基準 - 話技能2012年ガイドライン

レベル	総合タスクと機能	場面/話題	正確さ	テキストの型
超級	広範囲に議論したり、意見を裏付けたり、仮説を立てたり、言語的に不慣れな状況にも対応したりすることができる	ほとんどのフォーマル/インフォーマルな場面/広範囲にわたる一般的興味に関する話題、およびいくつかの特別な関心事や専門領域に関する話題	基本的言語構造に関してはパターン化した間違いがない。誤りがあっても、コミュニケーションに支障をきたしたり、母語話者を混乱させたりしない	複段落
上級	主な時制の枠組の中で叙述したり、描写したりすることができ、予期していなかった複雑な状況に効果的に対応できる	ほとんどのインフォーマルな場面といくつかのフォーマルな場面/個人的・一般的な興味に関する話題	母語話者でない人との会話に不慣れな聞き手でも、困難なく理解できる	段落
中級	自分なりの文を作ることができ、簡単な質問をしたり相手の質問に答えたりすることによって、簡単な会話なら自分で始め、続け、終わらせることができる	いくつかのインフォーマルな場面と、事務的・業務的な場面の一部/日常的な活動に関する、予想可能で、かつ身近な話題	母語話者でない人との会話に慣れている聞き手には、何度か繰り返すことによって、理解してもらえる	文
初級	丸暗記した型通りの表現、単語の羅列、句を使って、最小限のコミュニケーションをする	最もありふれた、インフォーマルな場面/日常生活における、最もありふれた事柄	母語話者でない人との会話に慣れている聞き手でさえ、理解するのが困難である	単語と句

複段落とは

- 話題を広く取り扱える：詳細な描写／叙述，意見とサポート，議論の展開，仮説形成
荻原（2000）より



- 複段落，段落，文の差異「きっかけ」を例に

中級の中 (IM1050)

T: そうですね、えーと、その車に興味を持ったのは何か、きっかけでもありましたか

I: きかけ [きっかけ] ですか〈はい〉、んー、んー高校生のとき、んー、テレビれー [で]、なんか、タイの、モト、モト、モーターショーとか〈はい〉、あります、あーんとても有名な、なんかじゅめい [有名] な、車がたくさんあります〈はい〉、そこで、あー、ざしか、見て、なんか、つく、車を作る人になりたいなと思いました

上級の中(AM0001)

- T : えーどうしあの働くのをやめてやっぱり勉強しようと思ったのはどうしてー
- I : い, あのワーキングホリデービザで1年間, バイトーだけ やったりして [して] あんまり, 話すのは前よりうまくなった なんですけど文法とかかんじー [漢字] が弱くて 〈んー〉 もう ちょっと勉強, しな, ければならないと思った思って {咳}, あ とで勉強したんですけど, うまくいけな, かったので 〈んー〉, 学校に入ったらもうちょっと, ちゃんとした勉強 〈ん〉, できる なっ, と思ってはいり入ったんですけど 〈んー〉, 今は, ちょ生活ができなくて, パイト [バイト] も, しやったんですやりまっ す [ます] あの, パイト [バイト] もやりながら勉強 〈あ〉, す るんですけど

超級の例

T : じゃそのきっかけみたいなのはなんどんなことだったんでしょうか

I : あー **もともと〈はい〉韓国でー、も、声優の仕事を〈はい〉やっ**
たんですが〈えー〉、韓国での*きっかけはですね、子供のころちよっ
と見た、まあ映画のほうですね〈はい〉、 **でーそんなとき〈はい〉、** **がい**
ごくじん〔外国人〕の俳優さんーなのに〈はい〉、 **すげえぺらぺらな韓**
国語で {笑} 〈{笑}〉、 **そう話を〈はい、はい〉、** **していたんですよ**
〈えー〉、 **でそれを見て、ま子供ですから〈はい〉、** **はい、** **あーなんか**
外国人なのになんでそんなにに〈んー〉韓国語がじょうずなのかなーっ
て〈はい〉思って〈えーえー〉、 **両親に聞いてみたら〈はい〉、「あ、**
ああいうのは*〈えー〉、 **声優さんていう人が〈はい〉、** **まあ、** **声をま**
あ吹き替えして〈えーえー〉、 **まあ放送するんだよ」** **って言われてです**
ね、 **そん、** **そのときから〈はい〉、** **ちょっと漠然なー** **そういう、** **ま、** **あ**
なりたいなー〈えー〉 **っていう気持ちはあったんですけども〈えー〉、**
で、 **高校生になったからで〈はい〉、** **まあちよっと詳しい情報とかをも**
らってですね〈えーえーえー〉、 **で本格的に〈んー〉、** **声優目指すこと**
になりました

1.1 対面／電話インタビューについて

・インタビューの手順

導入部	レベルチェック	突き上げ	終結部
あいさつ， 簡単なやり とり，会話 の糸口とな る話で構成	無理なく話せるレベ ルを見極める質問	運用能力の上限、 限界を発見する 質問	楽なレベルに戻 し，肯定的な雰 囲気で終結する
ロールプレイ			

- ・費用 正式な認定には159米ドル
- ・時間 20分から30分

テスターについて

- テスターは、ワークショップ（4日間）の後、インタビューデータ（練習用、認定用）を提出し、テスター資格を取得
- 4年に一度資格更新のためにインタビューデータを提出

1.2 OPlcについて

- テストの実用性(バックマン/パーマー2000) の点から、簡便なテストがもとめられる。
- OPlc：コンピュータを使用して、 多人数が一斉に実施

表2 日本語テストの概要 (GLOBAL8提供資料より)

対象言語	日本語
テスト時間	約60分 (オリエンテーション20分、テスト最大40分)
出題内容	Background Surveyを通じて個人に合わせた問題を出題 例えば、職業、レジャー、趣味、関心事、スポーツ、旅行などのトピック
評価基準	ACTFL Speaking Guidelines 2012基準 OPIc level 1~7 (Novice Low~ Advanced Low)
問題数	12~15問 (個人によって異なる)
テストの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 「様々な方法で「話せる」状況を実現」 ● 実践的なスピーキング力を測る評価項目 ● 高い利便性
評価要素	<ul style="list-style-type: none"> ● Function/ Global Tasks(コミュニケーション継続能力) ● Text Type(文章構成力) ● Contents/ Context(状況に応じた表現力) ● Comprehensibility(質問意図の把握能力) ● Language Control(文法・語彙・流暢さ・発音) <p>→一つの評価領域に偏らず、受験者の会話を総合的に評価</p>

テストの流れ (GLOBAL8提供資料より)

オリエンテーション

① Background Survey



職業、関心分野、
レジャー、趣味など自分に
連ある
選択肢を選ぶ

- 個人に関するアンケートの結果から、
関連する問題を出題
- テストに対する安心感、発話量を確保

② Self Assessment



スピーキング能力に関する説明
と回答サンプルから、自分のレ
ベルを自己診断する

- 自己診断の結果から、問題のレベルを決定
- レベルによって問題の難易度が異なる

2019/8/28

受験者のレベル、
関心分野に基づいて
12~15問が出題

ある場所、人、
物事に関する出題

仕事や周辺活動に
関する出題

過去の経験、
仕事などに関する出題

質問を作成する出題

テスト



- ✓ 問題聴取 2回
- ✓ 問題毎の回答時間制限はない

途中、難易度の再調整



2. ACTFL 基準とCEFRとの関連づけについて

- 2010年から関連づけ:テストベースで行われている
(Bärenfänger, O., & Tschirner, E. 2012, Swender, E.,
Tschirner, E. & Bärenfänger, O. 2012など)
- 手順： Manual for relating language examinations to the
Common European Framework of Reference for
Languagesに従う

手順

★評定者は6名，経験豊かなThe European Language Certificates(telc)のトレーナーとテスター

1. Familiarization: 評定の確定したCEFRのサンプルを用いて，評定者のCEFR評定を再訓練（CEFR話す各レベルについて話し合い→各レベル1つずつのtelcサンプル聞いて個人で評定→同一レベルに納得するまで話し合い）
2. Calibration: 評定者の信頼性を決めるために，評定の確定した12のCEFRのサンプルを個人で判定。個人の評定との相関が.85以上の評定者を採用（参加者全員が該当）
3. Benchmarking: CEFRによる評定が確定していないサンプルを評定者たちが評定するという狭義の評定。その後，ACTFLの基準に従った評定と比較（個人でOPIcとPOIデータ54本（NM以上各レベル6本）を評価(5分から8分の部分)，2グループに分け，聞く順を変える，書き起こしを見ながら1回聞く，1サンプルに約10分）
4. 予め確定している評定と評定者の評定との相関を計算する

表4 一方向の関連づけ 「Assigning CEFR Ratings to ACTFL Assessments」より

受容：読解・聴解		産出：話す・書く	
ACTFLレベル (LPT,RPT,L&Rcat)	対応する CEFR	ACTFLレベル (OPI,OPIc, WPT)	対応する CEFR
卓越級	C2		
超級	C1.2	超級	C2
上級上	C1.1	上級上	C1
上級中	B2	上級中	B2.2
上級下	B1.2	上級下	B2.1
中級上	B1.1	中級上	B1.2
中級中	A2	中級中	B1.1
中級下	A1.2	中級下	A2
初級上	A1.1	初級上	A1
初級中	0	初級中	0
初級下	0	初級下	0

ACTFLとCEFR 読む

ACTFL 中級 中

簡単で、予測可能で、ゆるやかにつながった文章を理解する。状況による手がかりに大きく依存する。お知らせ、通知、インターネット掲示板、フォーラムなどよく見られる基本的な情報を伝達する文章を理解。複雑ではなく、その提示のパターンも予測可能。高頻度の語彙を使った個別の文章あるいは文の並列によってできている。しかし、詳細に書かれた文章、できごとの順序、時制枠、時系列を理解するのに、構文の知識が決め手となるような文章については十分に理解することができないこともある。

2019/8/28

CEFR A2

包括的な読解：非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関係の言葉で書かれた、具体的な身近な事柄なら、短い簡単なテキストを理解できる。かなりの国際的共通語彙も含めて、よく使われる語で書かれた、短い、簡単なテキストを理解できる
通信文：身近な話題についての日常の手紙や、ファックス（紹介、注文、確認など）の基本的なタイプの物を理解できる。短い個人の手紙。
世情：広告、趣意書、メニューから予測情報や議論：手紙、パンフレット、新聞の短い記事など簡単なテキストのなかから特定の情報を見つける。

日本テスト学会2019年大会

18

ACTFLとCEFR 話す

ACTFL 中級 中

目標文化圏で生活するのに必要なよく起こりうる具体的なやり取りに限られる。自分にまつわる情報、食べ物、買い物、旅行、宿泊などといった物質的、社会的なニーズが含まれる。

直接的な質問や情報の依頼には受け身の姿勢で対応。

道順、値段、サービスなど基本的な必要を満たすための簡単な情報を得るのに必要な場面では、様々な質問をすることができる。

CEFR B1.1

一般的な話し言葉のやりとり：簡単だが幅広くことばを使え、旅行中に遭遇する可能性のあるほとんどの状況に対応できる。身近な話題に準備なしで加わることができる。

身近で個人的関心のある事柄、または日常生活に関連する話題（家族、趣味、仕事、旅行など）について個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる。

- 多くの教育機関のカリキュラム作成, Can-doリスト作成にCEFRを導入している

→口頭表現能力に関して

1. テストにOPI,OPIcを導入,
2. 教育機関のテストにおいて, OPIのインタビュー技術を応用した独自のテスト作成
3. カリキュラム作成に, OPIコーパスデータ (後述) の分析を生かす

3. 日本語OPIの教育への応用

3.1 教育現場への応用

- テスターの多くは教育関係者→教育現場への応用
- 荻原（2001）大学教育，伊藤（2001）日本語学校，池崎（2001）ビジネスパーソン対象，中島（2001）子ども対象
- 『月刊日本語』 「OPIを授業に生かす」シリーズ（1999-2000）
日本語OPI研究会HP<<http://www.opi.jp/shiryu/jugyoni.html>>

3.2 教材作成への応用

できる日本語教材開発プロジェクト(2011) 『できる日本語』
<<http://www.dekirunihongo.jp/>>

文型中心ではなく，「自分のこと／自分の考えを伝える力」 「伝え合う・語り合う日本語力」をつけることを目標

『できる日本語』

『できる日本語』
各課のタイトル

同じ話題で内容を
初級→初中級→中級
と扱いながら、難易
度を上げていく

	共通テーマ	初級	初中級	中級
1	出会い	はじめまして	新しい一歩	新たな出会い
2	消費生活	買い物・食事	楽しいショッピング	楽しい食事・上手な買い物
3	計画	スケジュール	私の目標	時間を生かす
4	私がいるところ	私の国・町	住んでいる町で	地域を知って生活する
5	できごと	休みの日	大変な1日	緊急事態！
6	外に出る	一緒に！	旅行に行こう	地図を広げる
7	交流	友達の家で	西川さんの家へ	世代を超えた交流
8	想い	大切な人	ありがとう	気持ちを伝える
9	趣味・余暇	好きなこと	アルバイト先で	言葉を楽しむ
10	旅	バスツアー	旅行に行って	日本を旅する
11	ライフ	私の生活	地域社会の中で	ライフスタイル
12	健康	健康が	私の健康法	心と体の健康

初級

初中級

中級

私の生活

地域社会の中で

ライフスタイル

17	はす			地球に生きる
18	環境			地球に生きる
19	科学			科学の力
20	豊かさ			豊かさと幸せ

3.3 OPIコーパス

- 学習者コーパス

『KYコーパス』 中国語話者30名， 英語話者30名， 韓国語話者30名
(鎌田 + 山内1999)

『日本語学習者会話データベース』 (国立国語研究所) 339件文字データ， 215件音声データ <<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/>>

『日本語学習者会話データベース縦断調査編』 (同上) 集住地域， 分散地域の5年間の縦断データ + 追加データ40件
<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/judan_db/> 「生活者の日本語」

『ドイツ語話者話し言葉コーパス GLJコーパス version1.0』

初級・中級・上級15名

(村田 2014) <<http://german-opi.jpn.org/>>

OPIコーパスの特徴（山内2018）

長所：①被験者の最高のパフォーマンスが引き出されている。

②被験者の発話能力が明示されている

③インタビューの構成が標準化されている

④インタビュアーが十分にトレーニングされている

短所：①真の意味での「対話」であるとは言いにくい

②インタビュアーには、高度の熟練が必要である

OPIコーパスを研究に利用する利点

1. 学習者のレベルが明確→習得レベルを統制
 - KYコーパス：研究にも幅広く使用されている（森2017）
許(2000), ニャンジャローンスック(2001) など
2. 話者情報が明記
3. 文字データ, 音声データが揃っているものも

OPIテストターの発話を対象とした研究

1. OPIテストターの問題点を指摘，技術向上を目指す

「効果的な突き上げが難しい」

齊藤(2010), 渡辺(2010) 有澤他(2010), 嶋田(2010),
荻原・齊藤・増田・米田・伊藤(2001)

2. OPIデータを対象とした研究

語彙(橋本2010), 意見述べの抽象性(荻原・齊藤
2010)

<http://www.opi.jp/shiryu/20th_anniv.html>

コーパス利用， 談話構成に注目した研究

大隅・堀（2018）

研究課題

- 超級， 上級にふさわしい発話が引き出された質問の談話構成， 言語的特徴は何か

研究方法

- 国研コーパスの超級・上級データを対象
- OPIマニュアルに照らし合わせ， テスターと被験者の発話にタグ付け， 分析

その結果 テスターの発話抽出ストラテジー：

- ①キーワードの使用による詳細説明要求、
- ②キーワードの使用による意見要求、
- ③「具体的に・例えば・詳しく」を用いた詳細説明要求、
- ④意見を保留したため、質問の表現を変えて、もう一度意見要求を行う、
- ⑤仮定的な立場での仮説意見を求める、
- ⑥テスターの立場表明、
- ⑦上級レベルを維持した話題転換

→教育への応用：授業での**学習者の発話を引き出す**。学習者が内容を深める質問の仕方の指導。**学習者の質問力を上げる**。

- マニュアルを元に，発話にタグ付け→マニュアルに示された手順にしたがって，質問が繰り返されているかを検証する
- **OPI自体の妥当性を検証**することにもなる
→突き上げが十分にはなされていないデータ，質問が適切でなく意図した答えが得られないデータも。

齊藤(2010), 渡辺 (2010) の指摘を**データで裏付け**

- インタビュー技術の向上に向けたワークショップ等で利用

被験者の意見に対して
反論を出しにくい

今後の展望

1. テストとしての実施のしやすさ→OPI cが増える
2. OPIコーパスのさらなる利用

日本語教育に携わる人（教育機関・地域）だけでなく、共に生活する人が**学習者言語を知る**→**共生社会**へむけて**日本語教師養成，地域のボランティア養成にコーパス利用を。**

まとめ

1. ACTFL日本語OPIとは

1.1 対面／電話OPIについて

1.2 OPIcについて

テストの実用性の面から、今後 OPIcが盛んになるのではないか。

2. ACTFL 基準とCEFRとの関連づけについて

CEFRのマニュアルに従って、テストベースで関連づけ

CEFRを用いて、カリキュラム作成、Can-doリスト作成を行っている教育機関へOPIの考え方を導入

3. 日本語OPIの教育への応用

3.1 教育現場への応用

幅広い対象者に対して，口頭表現能力を伸ばす

3.2 教材作成への応用

OPIの考え方を取り入れた教科書「伝える力」

3.3 OPIコーパス

研究，教育機関・生活者の指導への応用

3.4 日本語教育研究への応用

今後の展望：OPI c，OPIコーパス

参考文献

- 池崎美代子 (2001) 「ビジネスパーソンを対象とした活用法」 牧野成一他著『ACTFL-OPI入門』, 136-151.アルク
- 伊藤とく美 (2001) 「日本語学校での活用法」 牧野成一他著『ACTFL-OPI入門』, 120-135.アルク
- 大隅紀子・堀恵子(2018)「上・超絶話者の発話を引き出すための談話展開と効果的な質問」『日本語プロフィシエンシー研究』6, 69-87.
- 荻原稚佳子 (2000) 「典型例に見る上・超絶話者の発話の特徴」『月刊日本語 OPIを授業に生かす第17回<調査編4>』アルク
- 荻原稚佳子 (2001) 「日本の大学での活用法」 牧野成一他著『ACTFL-OPI入門』, 100-119.アルク
- 許夏珮 (2000) 「自然発話における日本語学習者による「テイル」の習得研究--OPIデータの分析結果から」『日本語教育』104, 20-29.
- できる日本語教材開発プロジェクト(2011)『できる日本語』アルク
- 中島和子 (2001) 「子どもを対象とした活用法」 牧野成一他著『ACTFL-OPI入門』, 152-169.アルク
- ニャンジャロンスック・スニーラット (2001) 「OPIデータにおける「条件表現」の習得研究--中国語,韓国語,英語母語話者の自然発話から」『日本語教育』111, 26-35.
- 橋本直幸(2010)「OPI データに見る「話題」と「語彙」の関係 —OPI データを用いた語彙研究—」『日本語OPI研究会20周年記念論文集・報告書』112-120.
- 牧野成一監修・日本語OPI研究会翻訳プロジェクトチーム翻訳(1999)『ACTFL-OPI試験官養成用マニュアル』アルク
- 森秀明 (2017) 「KYコーパスを使用した計量的分析法の現状と課題」『文化』81-1,2.75-95.<<http://hdl.handle.net/10097/00121930>>

- 山内博之(2018)「日本語OPIにおける対話型タスク：発話を引き出すタスクの構造」『Learner Corpus Studies in Asia and the World』 3.87-98.
- 渡辺素和子(2010)「超級レベルにおける意見叙述・仮説抽出法：問題点と対策」『日本語OPI研究会20周年記念論文集・報告書』 45-54. 日本語OPI研究会
- 「2011 ACTFL CEFR CONFERENCE REPORT」 ACTFL <<https://www.actfl.org/news/reports/2011-actfl-cefr-conference-report>> (2019年7月1日閲覧)
- 「ACTFL Proficiency Guideline 2012 日本語」 <<https://www.actfl.org/publications/guidelines-and-manuals/actfl-proficiency-guidelines-2012/Japanese>> (2019年7月1日閲覧)
- 「Assigning CEFR Ratings to ACTFL Assessments」 ACTFL <<https://www.actfl.org/publications/additional-resources/assigning-cefr-ratings-actfl-assessments>> (2019年7月1日閲覧)
- Bärenfänger, O., & Tschirner, E. (2012) Assessing Evidence of Validity of Assigning CEFR Ratings to the ACTFL Oral Proficiency Interview (OPI) and the Oral Proficiency Interview by computer (OPIC) (*Technical Report 2012-US-PUB-1*). Leipzig: Institute for Test Research and Test Development.
- Council of Europe(2009)Manual for Relating Language Examinations to the Common European Framework of Reference for languages(CEFR).Strasbourg:Language Policy Division.<<https://rm.coe.int/1680667a2d>>
- GLOBAL8「O P I c サービス」 GLOBAL8 <<http://www.global8.or.jp/opic.html>> (2019年7月1日閲覧)
- Swender, E., Tschirner, E. & Bärenfänger, O. (2012) Comparing ACTFL/ILR and CEFR Based Reading Tests. In E. Tschirner, ed., *Aligning frameworks of reference in language testing: The ACTFL Proficiency Guidelines and the Common European Framework of Reference*, Tübingen: Stauffenburg, 123-138.